

平成31年度 学力向上指導改善プラン

三田市立上野台学校長 西村 篤巳

学校教育目標		夢や志をもち、心豊かでたくましく生き抜く生徒の育成				
推進主体		管理職と研究推進担当・生徒指導担当・教科代表により 学力向上推進委員会を設置				
学力に関する前年度の状況・経年の課題等						
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語・算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○A・B問題の平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は全国比+6.7ポイントだった。 ○B問題の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は全国比+12.7ポイントと高く、「書くこと」の領域も全国比+5.6ポイントと高かった。 ◆領域別においてはA問題の「読むこと」が全国比-4.7ポイントで課題が見られた。			
		算数・数学	○A、B問題共に、全国平均を上回っている。とくに、A問題については全国平均正答率を7ポイント上回り、4領域のすべてにおいて、全国平均・兵庫県平均を上回っている。 ○「数学的な技能」については77.4%とおおむね理解できている ◆「知識・理解」は図形分野において全国平均を下回る問題(図形の性質を問う問題)もある。 ◆「数学的な見方や考え方」については、ねばり強く取り組む生徒と、無回答になる生徒との二極化がみられる。			
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ◆効果的な学習方法を工夫することに課題がある。(経年) ◆家庭学習の習慣づけをどのように図るかについては、継続した課題として取り組む。				
慣学・力 生活向上に 係る等の 学習状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」については、肯定的な回答が全国平均と比べて高い。 ◆「家で、学校の予習・復習をしていますか。」については、肯定的な回答が全国平均と比べて低い。				
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○授業のわかりやすさに関する肯定的評価が90%を超えている。 ◆家庭学習の習慣ができていないに対する否定的評価が多い。				
研 修 内 の 研 究 状 況	校内研究の状況	○授業力向上に関する教員の意欲の高まりがみられる。 ○達成目標を意図した指導案を作成し、授業実践及び研修を進めることができた。上野台モデルでの指導案による研究授業は4授業実践できた。				
	校内研修の状況	○大学との連携による研修会を実施した。 ○幼少中で育っていた上野台の子と『みんな育てよう』を作成し、一つの方向性を示すことができた。				
家 庭 ・ 携 種 間 連 携	家庭・地域等の状況	○学校だより、学年だよりを活用し、継続して家庭や地域への啓発を行った。 ◆家庭学習の習慣については、課題がある。どのような家庭学習がのぞましいか検討している。				
	小・中における教科連携等の状況	○小中で取り組むことができる学習習慣・学習規律について協議する合同研修会を開催し、情報の共有化を図った。 ○4小学校合同で、小学6年生対象の体験授業(英語)を中学校にて行った。				
4月		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	10~11月 中間評価	2~3月 年度末評価	評価
学力向上に向けての重点的な目標				(今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
①学力向上へ向けた授業改善の工夫 【どの生徒にとってもわかる授業の工夫による意欲の向上、家庭と連携した学習環境づくり、分かりあう仲間・集団、学び方や学びの質を伝える授業の工夫。学習への達成感を意図した授業デザイン】		・講師を招いた授業研究会を年間3回以上開催する。 ・授業公開週間を実施する。 ・教科横断的な授業を実施する。	・学習意欲を高め、学ぶ姿勢づくり。授業規律や学習規律の徹底と学習形態の工夫を行う。 ・学習意欲を高め、家庭学習習慣づくりのために学校として具体的な行動・活動を行う。 ・分かりやすく主体的に学ぶ授業改善を行い、「楽しい」「できた」「やった」と感じる授業を行う。			
②人権教育の推進 【自分や他人を大切に、共に生きる生徒の育成(徳・豊かな心)(目指す生徒像より)社会や組織の一員としての役割を自覚し、保護者や地域社会と繋がりながら協力して物事を推進していく教師(目指す教師像より)】		・PTAと共に、全校生徒を対象に人権講演会を実施する。 ・教員対象に人権教育研修会を実施する。 ・小学校ブロック別人権研修会に中学校担当者が参加する。 ・同和教育を要とした研修の実施。	・校内道徳人権教育推進委員会を通し、情報交換を行いながら系統だった特別の教科 道徳を行う。 ・校区内小学校とも連携し、小学校ブロック別人権研修会に中学校担当者が参加し、研修・研鑽に努め、全教職員で情報共有する。 ・地域の実態や実践から差別を許さない、差別を見抜く生徒の育成の研修を積み重ねる。			
③特別支援教育の充実 【どの子にとっても分かる授業や達成感を感じる活動の工夫と充実。「チャレンジ」「ステップ」学級の充実と支援の工夫。支援を必要とする生徒の理解と支援の工夫】		・巡回相談、教育相談を学期に1回以上実施する。	・巡回相談・教育相談を活用し、支援を必要とする生徒個々の理解と支援に丁寧に対応する。			
④不登校生への支援の充実 【生徒の居場所づくりや専門家・関係機関との連携】		・専門家や関連機関、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを活用した取り組み	・スクールカウンセラー等を活用した研修会を実施する。 ・教育相談や家庭訪問を行い生徒の実態把握を行う。			
⑤学校園所の連携の推進 【生徒の成長を「線」で捉え、子どもを中心に据えた、生徒が安心して学べる学習習慣作り・学校づくり。家庭での学習習慣作り】		・上野台中学校区幼小中全教職員対象合同研修会を実施する。	・学習規律、授業規律、生徒指導、特別支援教育、保健指導で幼小中連携の充実する。 ・『みんな育てよう』の実践を行う。			
⑥地域との連携の推進		・地域の教育力の活用をより一層進め、生徒の地域貢献活動や生徒会・部活動等でのボランティア活動を進める。	・地域や保護者のボランティアでの協力を進め、地域のまつりや地域の奉仕活動等に中学生がボランティアで参加できるように地域や家庭と協力して取り組む。			